

『開かれた窓』 (ダニエル書 6 章 1-16 節) 2021.11.14.

<はじめに> バビロンが滅び、メディア・ペルシャの時代に移ります。ダレイオス王は太守 120 名に全国を治めさせ、ダニエルら大臣 3 名をその上に置きます(1-3)。さらに王はダニエルを首相に任じようとしたことから、彼への謀略が企てられます(4-5)。禍中にあるダニエルの姿に目を留めます。

I 帰って祈るダニエル(10)

① 罫を仕掛ける(6-9)

ダニエルをねたむ大臣・太守らは、彼の個人生活、信仰生活に目をつけて訴える口実を作ろうとします。彼らは、30 日間王以外の神・人に祈願する者は獅子の穴に投げ込まれる、との禁令を王に提案したのです。王はその文書に署名し、その法令は即日発効となります。

② ダニエルは知って…(10)

明らかな悪意から彼に不利な状況が作られました。この状況を回避し、対抗するために、ダニエルには他にどんな行動ができたでしょう。危急のとき、どうするかはその人が大事にしているものが表れます。ダニエルは家に帰り、屋上で自分の神に祈ります。

③ 帰るところがある

自分で何もできないから、神頼みに向かうのでしょうか。ダニエルにとって神に祈ることは日常でした。彼は何事でも神に期待し、祈って示された対処で切り抜けて来ました。日々の生活、職務遂行の知恵と対処、困難な要求を突き付けられた時も、です。(エレ 33:2-3)

II 以前からしていたように(10)

① ダニエルの普段の祈り

彼は屋上に祈りの部屋を持ち、開かれた窓はこの地の神々ではなく、エルサレムを住まいとされる神・主を信頼する証しです。彼は日に三度自分の神に祈ることは、周囲にも知られ、それを敵さえも利用しました。主イエスの祈り場もそうでした(ルカ 22:39-40)。

② 祈るとき

どんな時に祈りますか。困った時、必要がある時、追い込まれた時…？ では、普段は？ 何を祈りますか。困り事、問題の解決、必要の満たし…？ では、何とかなることは？ ダニエルは、時と状況にかかわらず、日々、事々に祈り、神に結び付けていました。

③ 私の「いつも」

私は「いつも」何に心がけて生活しているでしょうか。また、私の周囲にいる人は、私の「いつも」に何を挙げるでしょう。ダニエルは折々に「聖なる神の霊を宿している」と評されたのは、彼は祈りを通して、神に近く生き、神と語らい、神の思いを受け取っていたからです。

III 感謝をささげて(10)

① この日も感謝？

「感謝をささげ」は別訳では「讚美」「告白」です。彼の祈りは感謝・賛美に満ちていました。厳しい状況を告げて、救助を訴え、相手への対抗と報復を嘆願する方が納得しませんか。この状況下で、彼はどんな感謝と賛美をささげていたのでしょうか。

② 感謝の祈りを想起する

敵の計画も意図も含め、すべてを知り、それを治めておられる神がおられるから、感謝。神が自分を探って非難されるところがないことを証してくださるから、感謝。如何なる状況に追い込まれても、神が私を守り支え、共にいてくださるから、感謝。

③ 祈りの点検

私の祈りは、報告と嘆願、応答を求める訴えに終始してはいないだろうか、神への賛美と感謝はどのくらいささげているだろうか、と探られます。祈りは、神の御性格を確認し、その臨在の中に自分とその周辺を置くことです。そうすると感謝と賛美があふれてきます。

<おわりに> 祈ったことで、何が起り、どんな結果が生じたかは、祈りの主題ではないことをダニエルは教えてくれています。自分と自分に関わる一切を神の御手の中に置き、最善をなされる神様に感謝をささげるとき、いかなる時にも私たちは神の平安に包まれます。(H.M.)